

カウナス市内を観光しました。

「杉原ハウス」では、偶然にも「命のヒザ」で救われた方の息子さん夫婦（アメリカ在住）が来館されており、「父の道をたどる旅をしている。杉原氏のおかげで、今は30人の家族ができた。」などと話してくださいました。

また、シモナス館長に、生徒たちが心を込めて折った千羽鶴と、杉原ウィーク短歌大会入賞作品の短冊を手渡しました。

5日目、ホストファミリーとの「お別れの交流イベント」がありました。生徒たちは感謝の気持ちを込めて「翼をください」を合唱しました。千羽鶴と短歌の短冊を贈り、生徒の代表数名が英語で感謝の言葉を述べました。ホストファミリーと最後の別れを惜しみ、涙を流す生徒もいました。

6日目にポーランドへ移動し、7日目は、かの有名な「アウシュヴィッツ強制収容所跡」を訪問しました。

雨が降りしきる中、現地で唯一の日本人ガイドである中谷剛さんの案内で、収容されるときに撮影された写真、「死の壁」、ガス室、犠牲になった方々の遺品などを見学しました。

中谷さんは、杉原千畝氏の素晴らしさを織り交ぜながら、当時の状況の説明をしてくださいました。

また、人としての在り方・生き方を問うようにして案内してくださいました。

杉原千畝さんの何が立派なことだったのかを考えながら見学してほしい。

外交官だった杉原千畝さん。日本人を助けるのが仕事であるが、千畝さんは日本人でなく、難民であるユダヤ人を助けた。

先日、前アメリカ大統領のオバマ氏がツイッターに「人を憎むことを人は生まれつきもってない。愛することを学びましょう」と記した。

「愛することを学ぶ」このことは杉原千畝さんの人生そのもの。どういう生活をするようになるのかを学ぶ価値がある。憎むことを学ぶか、愛することを学ぶか。

東北の震災の時、杉原千畝さんへの恩返しとして、ユダヤ人が真っ先に日本にやってきた。それほど杉原千畝さんは偉大な人。杉原千畝さんの業績を世界に広めてほしい。それが皆さんの役割です。

生徒は、第2収容所（ビルケナウ）進入門の線路跡地に、世界平和を願って千羽鶴を手向けました。

その後、中谷さんと一緒に昼食をとりました。生徒は昼食中も、中谷さんに質問をしたり感想を言い合ったりしていました。

帰りのバスの中では、一人ひとりが感じたことを次のように発表し合いました。

・ああいう状況の中でも生き延びた人がいたことがわかった。自分も今生きていること、生かされていることを自覚して、時間を大切にして生きたい。

・当時、14才以下はガス室へ。自分は14才。すぐ殺される。今自分が生きていることに感謝したい。

・狭いベッド、ガス室、暗い部屋に何十人；ユダヤ人のことを考えると苦しくなった。実際に見て感じたことをこれからの人道学習に活かしていきたい。

・こういうことが実際に起きて大勢の方が亡くなった。とても悲しい。伝えてくれる中谷さんに感謝するとともに、自分が伝えなくてはいけない。

昨年7月に八百津町とカウナス市が友好交流に合意したのを機に、今年から研修先がアメリカからリトアニア・ポーランドに変更されました。多感で柔軟、そしてしなやかでみずみずしい感性をもった中学生が郷土の偉人ゆかりの地でホームステイをしながら国際的視野を広げ、その功績を現地で目の当たりにして命の尊さや世界平和を学ぶことは、この八百津町の中学生だからこそできることであると思います。

この研修が、これから先、生徒一人ひとりの「夢と志」を明確にしていく『道しるべ』となることを強く期待しています。